

開学百周年の年のはじめに



教育後援会会長 小川 眞乗

のことです。さらに今年4月の看護学科開設もあわせて大学は益々発展しています。私たち父母・保護者としては、この大学で学ぶ学生が、「大学とは単に社会に出るまでの猶予期間」だけではなく『十分に学び、世の中に出るために備えるべき期間』であることをあらためて認識したいものです。具体的に大学生活や将来のことなどについて、学生の話をよく聞き、家族で話し合っ言葉のキャッチボールを行うことは、日頃は難しい場合でも、年の初めのこの時期は良い機会であると存じます。「こころをこめて」「みんなの幸せも願って」初詣をされた方もおられることでしょう。この気持ちを日々、持ち続けたいものです。『一人ひとりが異なった環境でそれぞれの個性と価値観を持ちながら、今をともに生きている』ことに気づかせていただいたときに『人と人がつながっている』ことがありがたく思えてなりません。

ふりかえり

心あらたに

年はじめ

新しい一年の始まりを迎えることができました。皆様おめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。年が明けましてもなお、東日本大震災により被災された皆様、また大雨・台風をはじめ様々な天災等により労苦を重ねておられる皆様にお見舞い申し上げますとともに、今後も、ともに息の長い支えあいを行い続けたいと強く願いたします。

昨年も佛教大学教育後援会の諸活動にご理解ご協力ご配慮をいただき、父母・保護者の皆様をはじめ、大学の教職員の皆様、さらには大学に関連して学生を支えてくださっている地域の皆様等ご関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。昨年も教育懇談会をはじめとする教育後援会の諸活動を通して、たくさんの皆様から貴重なご教示をいただき誠にありがとうございました。本年もまた活動へのご参加ご協力をいただきたく何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、佛教大学はいよいよ本年、平成24(2012)年10月23日に開学百周年という大きな節目を迎えます。長い年月にわたって、縁(えにし)で結ばれてこられた皆様のお力と存じます。この記念の年に巡り得ましたことに誠にありがたく感謝いたします。大学では、昨年の二条キャンパスの竣工に続いて、現在行われている紫野キャンパスのリニューアル工事も、平成27年度完成を目途に進んでいると

何かと大変なこんなときだからこそ、日々を元気に過ごしながら次世代にたすきを渡せるように、笑顔といたわりあう言葉で世の中がもっと明るくなるようにつとめあいたいものです。最後になりましたが、学生の皆さん、父母・保護者の皆様、そして大学の皆様、今後もお互いに一人ひとりを尊重しながら、開学百周年の大きな節目となるこの一年が有意義な年となりますことをお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

佛教大学の現況とめざす教育について

副学長 清水 稔



新年明けましておめでとうございます。

佛教大学は、今年（2012 <平成 24 >年）開学 100 周年を迎えます。学内ではそれにむけて教職員・学生が一体となり、すでにさまざまな企画が進行しています。まずは大学の施設等の教育環境の整備（リニューアル）を進めております（後述）。またその取り組みのシンボルとなります本学のイメージキャラクターのデザインを学内外に公募し、その名称を「ぶったん」と命名、さらにその着ぐるみを作製して、学内外のイベントや課外の活動、広報等で活躍しています。期せずして今年の干支は辰（龍：DRAGON）です。開学 100 周年を教育後援会のみなさまとともに佛大のさらなる発展の第一歩にしていきたいと考えます。



100 周年を記念してのリニューアルは、紫野キャンパス南校地の 9 号館、1～4 号館を解体して新しい建物につくりかえます。新築棟は 5 階建てで 3 棟（工事区分に基づく）を一体化した斬新なもので、2015（平成 27）年度の完成をめざしています。すでにその一部が新 1 号館としてお目見えし、昨年の秋学期（9 月）から、2 階は学生支援のための事務スペース（教務部・学生部・教職支援センター等）、3～5 階は教室として使用を開始しています。このキャンパス整備は最終的には本学の仏教精神を表象する礼拝堂の建設をもって完成となります。また昨年 4 月に、本学のあらたな拠点として JR 二条駅前に、二条キャンパスを開設し、新 1 号館を建設しました。ここでは保健医療技術学部の専門科目の授業を主として行っています。

開学 100 周年の基本コンセプトは「感謝～ありがとう～」です。今まで大学や学生を育てていただいた地域社会や企業、あるいは家族や先生、卒業生や

地域のみなさまに対し、ここ京都の地で元気で幸せに学べることに感謝をし、ともすれば失われがちな「ありがとう」の心を育成することをめざしています。これに関連し「全学まちピカ☆大作戦！～日頃の感謝を込めて～」と称するキャンパス周辺の清掃美化運動の実施、「感謝・ありがとう祭典：園部キャンパス祭り」の開催、100 周年目（2012 年 10 月 23 日）にむけてのカウントダウンボードの設置、あるいは本学の HP を通じて学内外に「感謝～ありがとう～」に関わる投稿をもとめ、それを公開し、感謝を啓発する企画などを行っています。また一昨年からはホームcomingデー（鷹陵祭期間中）を開催し、同窓会の協賛を得て、卒業生のみなさまと大学の教職員および在学生が交流することを通して、絆を深めあい、佛教大学の今後の 100 年にむけて人のつながり・絆を強固にする基盤づくりを進めています。さらにシンポジウムや講演会等を 100 周年記念事業と位置づけて学内外で行っております。

佛教大学は現在、7 学部 13 学科（次年度は保健医療学部看護学科を増設しますので、14 学科）で 6733 名の学生（別科生・科目履修生を含む）と、4 研究科（修士・博士後期）12 専攻で大学院生 212 名を擁する、人文科学系・社会科学系・医療技術系の総合大学です。学生の多くは近畿圏在住で、全体の 8 割近くを占めております。また全学部・全研究科に通信教育課程（保健医療技術学部は除く）を併設し、ここでは大学院生 391 名を含む 13743 名の学生が学んでいます。そのため本学の紫野キャンパスは

夏期休暇中も日曜・祝日も学生の学び舎として活気にあふれています。一方、学生の指導にあたります教職員は、専任教員 220 名、専任職員等 221 名、非常勤講師 863 名です。また 2011（平成 23）年度の入試状況ですが、1 学年の定員は 1340 名、入学者は 1568 名です。受験者数はこの二年間毎年延べ 18000 人を超える盛況で、競争倍率は高く、近畿圏では教育内容を含めて高い評価を受けています。

佛教大学の歴史の淵源は、1868（明治元）年の知恩院山内の源光院（現三門南側）に開設した仏教講究の機関（後の勸学所）に遡ります。大学としての 100 周年の起点はといいますと、1912（大正元）年の専門学校令により高等学院、翌年佛教専門学校と改称したことに始まります。23（大正 12）年には校舎を左京区の鹿ヶ谷に移し、34（昭和 9）年に現校地鷹陵の地（紫野）に移転、戦後の 49（昭和 24）年の学制の改革で佛教大学と改称し、今日にいたっています。現在では紫野キャンパス、二条キャンパスを教育・研究活動のメインキャンパスとし、広沢・岩倉・園部の各キャンパスおよび四条センター（四条烏丸）では課外活動や文化活動、社会貢献事業等を行っています。

本学は、開学以来、浄土宗開祖法然上人の説かれた仏教精神をよりどころとする人間教育を育んできました。その人間教育の根幹は、今ここにいる自分が多くの人に生かされて存在しているという自覚をもち、かつ自分の愚かさ・未熟さ・至らなさを自覚することで、自己中心的になりがちな心を抑制し、他者を思いやる心を育成することにあります。本学の教育の原点はまさにここにありま。21 世紀が今までにない多難な時代であるからこそ、こうした自覚に基づく仏教精神を学生一人一人に理解させ、それをさらに個々の価値観にまで高める努力を、多様な教育カリキュラムのなかで展開するように心がけています。その具体的な教育目的や指針は、100 周年をむかえるにあたり、3 年前の 2008（平成 20）年秋に学内外に公表しました「佛教大学：新百年の誓い」に述べられています。これは、いままで 100 年かけて培ってきた誇るべき個性を継承し、それを次の 100 年にむけてより豊かに熟成させることを表明した大学の教育宣言です。その内容は、大学の種々の刊行物や学長の挨拶等のなかに記されていますので、ここでは省略しますが、山極学長以下本学教職

員はこの誓いを教育の場で実践するべく努力を重ねています。

ここで佛教大学における学生支援の現状と特徴についていくつか記しておきます。

- (1) 人材育成の明確化—大学はもちろんのこと、各学部・学科ごとに、入試の段階から、どのような学生を受け入れ、どのように教育して、どのような社会に送り出していくのかについて、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの 3 ポリシーを掲げて人材育成の目標を明確化し、それに適応した教育プログラムを作成し、その実践につとめています。
 - (2) 「新百年の誓い」の根幹にある建学の理念に関わる教育の実践—そのために全学科の 1 年生に対して「ブツダの教え」「法然の生涯と思想」（ともに必修）を開講し、さらに学長・副学長を中心に「佛教大学の理念と歴史」と題する自校教育の講義を設け、本学の理念（仏教精神）や歴史や伝統を学ぶなかで、学生が本学で学修することを通して「自信と誇り」をもって、社会に巣立っていけるように、と心がけています。また宗教教育センターでは毎朝始業前 30 分間「朝のおつとめ」と教職員による「法話」を実施し、仏教精神の涵養につとめています。なお百周年記念行事と関連して、先に述べた「感謝～ありがとう～」キャンペーンも、こうした仏教精神を育成し人間教育を醸成する一環です。
 - (3) 初年次教育の充実—各学年、各学部・学科ごとに少人数（15 名から 20 名程度）のゼミ授業を配置し、学生の学修生活をきめ細かく指導する体制をとっています。まず 1 年生に入りますと、各学部の入門ゼミで、大学の学びについての手ほどきをします。あわせて PC あるいは携帯モバイルを利用し、本人に与えられているメールアドレスを通じて、ゼミ担当の教員・上級生・事務職員とのつながりをつくり、面談では言えないこと、あるいは学習や日常生活に関する質疑に対して即座に応答ができるシステム（SNS）を稼働させています。本学ではこの一連の指導の総体を「縁コミュニティ」とよんでいます。
- もちろん学生指導の基本は Face to Face にあります。各先生方はオフィスアワーを設け、また各事務セクションでは「ほっときません!! あなたのことを」

のキャッチフレーズの旗をかかげ、訪れる学生のあらゆる問題に対応できるようにし、学生にとって不安のない学園生活ができるよう配慮しております。これと連携し、本学では「学修停滞者ゼロ」をめざし、各セメスターごとに単位の未修得者をリストアップし、学修促進にむけた個別指導にあたっております。また近年心の悩みや心の病気等をかかえる学生が急増しております。身体障がい者の対応をも含めて、そうした学生に対しても、学生部のもとにあります学生相談室・保健管理室等の相談員・専門員・医師・看護師、さらには学部・学科の教員と連携し、丁寧な個別対応を行うことで、修学や卒業や就業にむけた援助につとめています。

(4) キャリア教育の拡充—キャリア教育は就職を目指すことにあるのではなく、卒業後の人生設計をどう考えていくかを学ぶことにあります。学生・大学はもちろんですが、保護者も含めて一体となって考える課題でもあります。いま大学では、キャリア教育を1年生から着実に積み上げる取り組みを行い、4年後の就職、さらにはその後の生き方につながる意識づくりにあたっています。あわせて就職試験対策講座・教員採用試験対策講座・公務員受験対策講座・社会福祉士受験対策講座・保育士講座あるいは話し方セミナー等さまざまな講座を開設して、学生の就職活動を側面から支援するとともに、また実業経験豊かなキャリアアドバイザーを配置し、各学部・学科の特性をふまえた面談活動を強化し、就職等に対する悩みや活動へのアドバイスをを行っています。また在学中の職業体験を通して労働の意義を学ぶインターンシップには、250名近い学生が参加し、学生の就業に向けた実践力の養成に大きく貢献しています。た

だ就職の成果は、日ごろの学修の積み重ねや日常における生活態度の延長線上に現れます。教室の学修姿勢こそが大切であること、家庭における挨拶・マナーもまた重要であることを保護者や学生のみならず肝に銘じておいていただきたいと思います。

(5) 国際交流の促進—21世紀はグローバル化の時代です。世界に目を向けられる学生の育成も重要だと考えています。本学では、海外の大学（中国・台湾・韓国・ベトナム・アメリカ・オーストラリア）と提携し、現地における短期の語学研修や長期の留学生の派遣を行っています。本学における2010（平成22）年度の交換留学による派遣学生は9名、留学プログラムによる派遣学生は40名、短期の語学研修生は76名、その他の留学生は43名となっています。また海外からも70名近い留学生をむかえて、異文化との相互交流を通して、世界に羽ばたける人材の育成につとめています。

最後にみなさまにおかれましては、本学の教育環境の整備や学生生活の支援等に多大なご助力をいただいておりますことに、大学として厚く御礼と感謝を申し上げます。教育は大学と保護者あるいは地域社会との深い連携のなかで構築していきこそ、初めて成果をあげうるものであると考えます。私たち大学の教職員も一丸となって可能なかぎり学生の学修および生活・進路等の指導を行っていく所存です。今後とも倍旧のご協力をお願いしまして、本学の現況と本学の目指しております教育に関する報告を終えさせていただきます。新春とはいえ寒さ厳しき折です。ご自愛いただきますように。



(リニューアル完成予想図)



紫櫻祭（新入生歓迎祭）（4月1日～6日）



田植え（4月）



紫櫻祭（新入生歓迎祭）



紫櫻祭（新入生歓迎祭）



企業説明会



BUKKYO UNIVERSITY ONE YEAR DIGEST 2011



第29回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会（10月23日）



第42回 明治神宮野球大会



創立記念日（10月23日）



創立記念日



創立記念日



ホームカミングデー（10月30日）



ホームカミングデー



全学まちピカ☆大作戦（10月9日）



モデルフォレスト運動下草刈 (7月)



学生Café運営実習 (8~9月)



留学生交歓会 (6月7日)



企業説明会



短期海外語学研修 (B U L A)



短期海外語学研修 (中国)



短期海外語学研修 (韓国)



まちピカ大作戦



第45回 鷹陵祭 (10月30日~11月1日)



佛大アルバム
平成 23 年度
第 45 回
鷹陵祭



テーマ『more action, more smile』

期間:平成 23 年 10 月 30 日(日)～ 11 月 1 日(火)

年に一度の大イベント「鷹陵祭」が今年も開催されました。テーマの「more action, more smile」は、実行委員会でいくつか候補を挙げ、その中から一般学生の投票により決定しました。コンセプトは、「一人一人が今まで以上に行動を起こせば、今まで以上に笑顔が生まれる」というものです。第 45 回鷹陵祭は参加された方々はもちろん、祭りを創り上げた学生たちもさまざまなアクションを起こし、今まで以上に笑顔があふれる鷹陵祭になったのではないのでしょうか。

開催中のキャンパスは、模擬店からは呼び込みの声が行き交い、教室内での企画や中庭ステージ企画等で更に賑わいました。また恒例の吉本お笑いライブや有名アーティスト（清水翔太）によるライブも行われ、どの企画も大盛況で終えることができました。

今年は 1 号館解体工事に伴い、キャンパス内が昨年と大きく変わったため困惑する場面もありましたが、昨年以上に教職員と学生の連絡を密にし、準備に取り組みました。実行委員は最善の方法を考え、限られた場所を最大限に活かし、前夜祭（10/29）を含め 4 日間に渡り開催された鷹陵祭を見事に大成功へと導きました。

最後になりましたが、ご来場いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。来年は学生がどのような「鷹陵祭」を創り上げるのか楽しみにしてください。





鷹陵祭実行委員長

深山 志穂 (人文学科3回生)



今年のテーマは「more action, more smile」。平日・休日関係なく来場者の方々もたくさん足を運んでくださり、たくさん笑顔を見ることが出来ました。一人ひとりが祭りに参加し楽しむアクションの結果として、より多くのスマイルが生まれました。まさにテーマ通り、最高の鷹陵祭になったと言えるでしょう。

今年は初日があいにくの雨天となりましたが、祭りの熱気もあってかすべての企画を無事終了することができました。実行委員だけでなく、多くの学生が事前から練習を積み重ねたり、祭りを積極的に盛り上げようと奮闘した結果でもあるでしょう。

また第45回鷹陵祭では、前夜祭の復活や中庭メインステージの縮小など昨年とは大幅に異なる点もありましたが、どうすれば来場者の方に楽しんでいただけるか皆で知恵を出し合い、当日まで精一杯準備しました。当日は予想外のアクシデントにも見舞われましたが、私たち実行委員も祭を楽しむことができました。鷹陵祭が成功できたのは、共に支えあった仲間だけではなく、教職員の皆様や来場者の方々、祭りに関わるすべての方の笑顔のおかげです。

最後になりましたが、鷹陵祭にご来場いただきました皆様、また、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

教育懇談会開催報告

教育懇談会は、教育後援会の一大事業として、大学との共催により毎年開催しております。今年度の教育懇談会は、6月18日の京都開催を皮切りに、11月13日東京開催をもって無事終了いたしました。

平成24年度も、引き続き開催させていただきますので、ぜひお気軽にご参加ください。

【平成23年度 教育懇談会開催状況一覧】

開催日	開催地	会場	参加人数(組数)
6月18日(土)	京都	佛教大学	136
6月19日(日)	倉吉	ホテルセントパレス倉吉	9
7月3日(日)	徳島	ホテルグランドパレス徳島	10
7月9日(土)	京都	佛教大学	93
7月10日(日)	福井	ホテルエコノ福井駅前	9
7月17日(日)	名古屋	ザサイプレスメルキュールホテル名古屋	9
10月2日(日)	小倉	ブルーウェーブイン小倉	14
10月9日(日)	富山	パレブラン高志会館	8
10月15日(土)	京都	佛教大学	126
10月16日(日)	岡山	岡山ビジネスホテルアネックス	18
11月6日(日)	福知山	ホテルロイヤルヒル福知山	21
11月13日(日)	東京	グランドプリンスホテル新高輪	4
合計			457

※平成24年度開催予定は、「教育懇談会のご案内」にてお知らせいたします。

今年度の教育懇談会も無事終了いたしました。多くの皆さまにご参加いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本学の教育懇談会は、大学と家庭との連絡を緊密にし、保護者同士の交流を深めることを目的として、父兄会（昭和62年度より教育後援会に名称変更）と大学との共催事業として昭和56年度から始められました。形式は、時勢に応じて多少の変更は行われてきましたが、教学・学生生活・就職に関わる事項について説明を行う「全体会」と個々のご質問にお応えする「個別懇談会」の大きく二部構成となっております。

開催の度に、保護者同士で「また来年もお会いしましょう」とやり取りされている姿や、本学ではお子様と待ち合わせて楽しそうに仲良く帰っていかれる姿も拝見します。教育懇談会という名称のために堅苦しい会だと思われがちですが、「大学とはどういうところか?」「佛教大学で我が子は何を学ぶ(得る)のか?」「大学生の我が子とどのように向き合うのか?」など、大学への理解を深めていただく場、保護者の皆さまの疑問や不安を解消する場、教職員とあるいは保護者同士の交流の場としてどうぞお気軽にご参加ください。

教育懇談会の開催については、例年、参加された方々からのアンケート結果をもとに、その内容も含め役員会で検討しています。今年度の内容については、「地方会場のように本学会場でも保護者同士の懇親や交流を」というご意見をもとに、教員による個別懇談会を「学科別懇談会」に変更し、保護者同士また教員と保護者の懇親が図れるように企画いたしました。また、昨今の社会情勢から就職への不安を相談されるケースが増えてきたこともあり、保護者向けに「就職特別講座」を開催いたしました。全体的には、概ね好評のご意見をいただいておりますが、本学会場では多数の参加に一部混乱する状況もみられ、今後さらに検討が必要だと感じております。お一人でも多くの方々に「参加して良かった」と思ってもらえるように取り組みをまいりますので、皆さまからも忌憚なきご意見をいただければ幸いです。

教育懇談会は、来年度も開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております（来年度の前定は、4月中旬にホームページ上でお知らせ予定）。

教育後援会所管事務局（校友会事務局課長 平尾浩美）

〈平成23年度 教育懇談会アンケート（抜粋）〉

京都会場

「学科別懇談会に参加された方」感想やご意見をお聞かせください。

- ・学科の授業のことや就職活動・状況のこと等、具体的にお聞き出来て、丁寧にお答えして下さり、参加してよかったと思いました。ご一緒した保護者の方々も学年の異なる構成で、様々な意見を伺えて良かったです（1回生保護者）
- ・大学でどのようなことを学んでいるかよく分かりました。個人的に聞きたいことは教室なので話がしにくかったです。学科別懇談会ではどのような話をすればよいのか？（2回生保護者）
- ・授業の内容など詳しく話を聞くことが出来、学科の様子がよくわかりました（3回生保護者）
- ・1～4回生の様子を細かく聞くが出来た。この時間がもっと長くてよい。就職のことも聞きやすい。ここでキャリア支援部の情報も貰えたらうれしい（4回生保護者）



【京都会場】

「就職特別講座へ参加された方」感想やご意見をお聞かせください。

- ・午前中の内容と午後の内容で自分の得たものをどうやって子どもとともに進めていけるかと、考える機会となりました（1回生保護者）
- ・三男がお世話になっていますが、他大学に比べ懇切丁寧で良かったと思います。「評価は他人からを忘れないが自分の自信力も大切です。」いいお話でした（2回生保護者）
- ・就職の不明者が多いのは、学生とキャリア支援部との関わりが薄いからではないですか。もっと学生としっかり関わって欲しいと思います（3回生保護者）
- ・子どもを見守るためにも、親にとって必要な講座であったと思います。とても力を入れて頂いていることがよく分かりました（4回生保護者）

その他、教育懇談会についてのご希望やご意見をお願いします。

- ・どの方々も親切で有難かったです。3回生・4回生の保護者の話が切実で、話を聞けて良かったと思いました。個別懇談は細かい話でも丁寧に説明して頂き、不安が解消されました（1回生保護者）
- ・他大学ではこのような催しはあまり開催されないと聞いております。益々より良い会となると良いと考えています（2回生保護者）
- ・本人任せなので、入学式以来、大学へ来る機会がなかったのですが、思い切って来て、お話を聞かせて頂き、大変参考になりました（3回生保護者）
- ・保護者の意見や希望が直接要望できるこのような機会をずっと続けてほしいです。学科別懇談会は、1～2回生・3回生以上に分けてして頂いた方が良かったのでは？（4回生保護者）

地方会場

教育懇談会に出席され、どのようなことがプラスになりましたか。

- ・4年間の見通しがわかりました。1回生なので早いかと思っていたのですが、今日は出席してよかったと思います（1回生保護者）
- ・大学の取組みなど、熱心な姿勢が感じられ、参加してよかったと思います。他の保護者の皆さんのお話も聞けて良かったと思います（2回生保護者）
- ・地方で就職や見学する場合の方法を説明して頂き、参考になりました。あらかじめ履修状況を調べて頂いており、現時点での状況が良く分かりました（3回生保護者）
- ・毎年出席させて頂いています。教員採用試験や大学のいろいろな情報、親としての心得などをお聞きすることが出来て良かったと思う（4回生保護者）



【地方会場】

その他、教育懇談会についてのご希望やご意見をお願いします。

- ・大学で保護者向けの懇談会があるとは思っていなかったものでうれしかったです。もっと個別懇談会の時間を長くして、具体的な対応策をより教えて頂きたいです（1回生保護者）
- ・初めて参加しましたが、個別相談にもって頂き、大学の様子なども聞けてよい機会となりました。大学との信頼関係が深まると、親としても頑張ろうという気持ちになります（2回生保護者）
- ・3回生で初めて参加させて頂きました。このような会はどうしても“きちんと”“かたい”“むずかしい”等のイメージがあるので、少し引込みがちになると思います。1・2回生から多くの方が参加できるアピールをとりたいです。（3回生保護者）
- ・何回か出席させて頂きましたが、毎回、個別懇談では親身になって相談にのって頂いて嬉しく思います。今後も懇談会を継続して欲しいです（4回生保護者）

教学部だより

教学部長 岡崎 祐司

学生の学びを受けとめる

教育懇談会でいつもお話することですが、私は率直にいて学生のご両親、ご家族を「保護者」と呼びするのにいささか違和感を感じています。未成年の学生もいることや、経済面でご両親に頼っている以上、そう呼ぶのも間違いではないでしょう。しかし、社会的に自立をめざす学生にとっての、親は保護というより、「支え、励まし、援助する」存在であるように思います。教育懇談会でご両親とお話をしてみると、多くの方は見守りつつも心配し、なにかよいアドバイス、援助の方法はないものかと思案されているように思います。

大学は社会で求められる人材—企業、事業所など経済社会を担う人材、免許・資格を取得しある専門領域を担う人材を養成する場であり、学生一人ひとりが社会市民や職業生活を担う力を養うために学びを修める場です。そのことは具体的な職業的知識や多様な技能を学ぶということだけではありません。仏教を基本に人間、歴史、社会、自然などに関する豊かな教養を身につけ、考え・書き・話す能力を獲得し、ゼミなどでの教員の直接的指導のなかで学問の厳しさや面白さを経験することも含まれます。学生の成長の中心にあるのは学修です。そのことが就職活動のエネルギーにもなるのです。

学修のことで、親と大学生の子どもがどんな会話をすればよいのか、意外に難しいものです。例えば、学生がこれまでの学修とその成果—なにが分かり、何が身に着いたのか、どんなふう視野が広がったのか—を「傾聴」し受けとめること、そのうえで学生自身の反省点や課題、これから取り組みたいことを聞きだすだけでも、良い距離間



でご両親に支えられ励まされていることを実感できるのではないのでしょうか。また親として子どもの成長を実感できるはずですが、ただし、求められてもいないのに、「上から目線」で審判し、指導するのは禁物です。まずは大人になりつつある彼ら彼女らの考えを、受けとめることが大切です。

個人別成績表で「N」（授業の出席不足）、「X」（定期試験未受験）が多い時は要注意です。これは学修が順調ではないということであり、卒業や免許・資格取得にもかかわってきます。その背景に何があるのか、学生が自分を客観的に認識し、事態を受け止めるよう話し合っていたいただきたいと思います。その場合も、結論を押し付けたり、親の不安をぶつけたりするのではなく、本人が自覚的に事態を受け止め、学修姿勢を改善するよう支え援助する立場で話あっていただきたいと思います。

学生のご両親、ご家族と大学教職員は、学生の成長を援助するために共同関係にあると思います。今後も、教育後援会の活動等を通じてみなさまとの協力関係を深めたいと考えております。

学生部だより

学生部長 西川 利文

4月に就任してから、早くも半年以上の時間が過ぎました。この間、当初目指していたことがどこまで実現できたかと問われれば、甚だ心もとない状況かと思えます。ここでは、キャンパスリニューアルをはじめ、春から秋にかけての進捗・変化の状況をご報告したいと思います。

キャンパスリニューアル関連

第一にご報告すべきは、新1号館（南側）が完成し、秋学期より授業等に利用されるようになったことです。これに伴い夏期休暇中に、学生課も新1号館2階に移転し、教務課・教職支援センターと同じフロアで業務を行うようになりました。

新1号館は校地の最南端で、工事の影響もあって、2号館以降の校舎と分離されたような立地になっており、学生の流れが若干気になるところです。また学生・教務・教職の3課が同じフロアになったことで、各課への学生の導線をどのように合理的に形成するかも、まだまだ模索途中であります。

さらに新1号館（南側）の完成に伴い、旧1号館の解体、新1号館北側の建設に入っております。これによって、中庭も夏期休暇前よりも若干狭くなりました。このような中で、春にお約束した、学生の「居場所」をどのように確保するか、施設部等とも連携しながら検討しております。その中で11月より、2号館地階にありました旧LL教室を改修し、フリースペースとして一定の空間を確保いたしました。また9月には、食品の売店に代わりコンビニ（セブンイレブン）が開店し、学生生活の利便性を増すようにしました。

キャンパス全面禁煙について

春に簡単に触れました「キャンパス全面禁煙に向けた推進プロジェクト会議」の6月以降の活動状況を紹介しておきます。昨年（2011年）1月の「キャンパス全面禁煙宣言」に伴って設置された本会議では、2012年4月1日のキャンパス全面禁煙実施に向け、6月には従来不明確であった喫煙エリアを明確化し、現在では喫煙スペースを5号館うちょ銀行ATM横と中庭西側に限定し、屋外の分煙の徹底を図ろうとしております。また毎月25日を禁煙デーとして、終日キャンパス内全面禁煙を試験的に実施しております。学生・教職員をはじめ本学関係者の理解と協力によって、喫煙マナーの向上と、来年度の完全実施に向けての周知の活動を行っております。

喫煙エリアの明確化は、試行錯誤の結果、現在のスペースに落ち着き、一定の成果は上がっています。しかし、まだまだマナー違反者も絶えず、エリア外での喫煙や、キャンパス外での喫煙によって近隣の方々にご迷惑をおかけすることが危惧されます。これらをなくすべく、今後も活動を続けていきたいと考えます。

なお、9月のガイダンス時に中央執行委員会が、全学生に対して喫煙に関する意識調査を行ってくれました。その結果、喫煙者は全学生の1割程度、また8割を超える学生がキャンパス全面禁煙に賛成してくれていることなど、有意義な調査結果が出ました。これらを参考に、キャンパス全面禁煙に向けた施策を講じていこうと考えます。

課外活動について

まず、本学最大の祭典・鷹陵祭が、10月30日～11月1日の3日間にわたり開催され、初日にはホームカミングデーも行われて卒業生の方々も多く参加していただき、盛会のうちに無事終えることができました。

強化指定2団体については、硬式野球部が秋季リーグで優勝し神宮大会に出場、陸上女子中長距離部門が全日本大会で2位という結果を残しました。その他の団体では、バレーボール部男子の関西リーグ1部昇格などがあり、その他にも団体・個人の活躍は多々あります。ただ春にも述べましたように、さらにもう一段階上の課外活動の活性化に向けた取り組みを進めていきたいと思えます。

学生生活支援全般について

学生部（特に学生課）は、学生サービスの部署として日常的に学生と接するところです。窓口対応をはじめ学生に対して丁寧で的確な対応と、正確な情報発信を心がけますとともに、学生の「生（なま）の声」を聞きながらキャンパスライフの改善に努めていきたいと思えます。



キャリア支援部だより

キャリア支援部長 松尾 俊秀

■これからの「キャリア」を考えよう

教育懇談会の場等全てのところで示している私の『これからの「キャリア」を考えよう』という言葉の真意の一つに「我と向き合う」ということがあります。就職先等の狭い意味ではなく「我の本気の夢は何か」－その夢を達成するためには何が必要か－を徹底的に追究して欲しいという願いがあります。また、どんな時も「我」という軸がぶれないようにという私自身をも含めた全ての方への呼びかけも含んでいます。

下表は、取り組みのひとつ「キャリアガイダンス『2回生に伝えたいエントリーシートの重要性』」（平成23年9月16日、10月17日、10月18日、10月20日、10月21日の計5回実施）の参加者総集計表です。参加率17.6%という数値が高いか低いかと問われれば「低い」「決して高くない」と評される数値です。私たちの広報活動等がまだまだ甘いという自省も常にしていますが、本学の全ての伝達方法を使い、その時々最善と判断する状況での実施とした場合と、学生の皆様が大学が何をしてくれるかではなく、自分自身のために大学で何ができるか・したいかを考えた結果とした場合ではこの数値に対する判断が変わってきます。この数値が示唆する実態はどこにあるか、保護者の皆様と共に見極めていく必要があると考えています。

学部学科名	4/1 現在学生数 (2回生)	参加者数			参加率
		男	女	計	
文学部日本文学科	145	7	27	34	23.4%
文学部中国学科	59	1	4	5	8.5%
文学部英文学科	94	4	9	13	13.8%
歴史学部歴史学科	138	25	24	49	35.5%
歴史学部歴史文化学科	79	15	23	38	48.1%
教育学部教育学科	181	2	2	4	2.2%
教育学部臨床心理学科	71	0	4	4	5.6%
社会学部現代社会学科	242	27	31	58	24.0%
社会学部公共政策学科	154	14	18	32	20.8%
社会福祉学部社会福祉学科	309	11	33	44	14.2%
不明		0	2	3	
計	1618	106	177	284	17.6%

学生の皆様の「我の夢」の軸に立った行動は、時には保護者の皆様や本学教職員とぶつかりあうことも予想できますが、それら全てを受け止めてこそ「支援」だと考えています。保護者の皆様との相互協力により学生一人ひとりに対して最善を尽くしていく三位一体の支援は、学生一人ひとりがこれからの「キャリア」を考えていく上で不可欠なものとなります。何卒、ご理解・ご協力を賜りますよう心よりお願いいたします。

最後に、私たちキャリア支援部は、どんな些細な内容であっても一人でも多くの学生の皆様と会話ができることを願っています。機会を見つけてキャリア支援部を訪問することを勧めていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

平成22年度 佛教大学・佛教大学附属幼稚園計算書総括表

平成22年度の決算関係計算書概要は次のとおりです。

■資金収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位 円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	9,860,629,150	人件費支出	5,897,627,921
手数料収入	699,280,250	教育研究経費支出	3,206,436,779
寄付金収入	104,392,940	管理経費支出	1,200,943,342
補助金収入	1,079,589,105	借入金等利息支出	139,946,692
資産運用収入	73,348,352	借入金等返済支出	462,190,000
資産売却収入	1,615,448,384	施設関係支出	4,316,568,210
事業収入	108,762,804	設備関係支出	523,411,025
雑収入	127,161,298	資産運用支出	2,090,645,890
借入金等収入	1,850,000,000	その他の支出	1,039,817,957
前受金収入	1,739,321,500		
その他の収入	957,989,607		
資金収入調整勘定	△ 5,843,314,554	資金支出調整勘定	△ 266,856,897
前年度繰越支払資金	9,984,411,413	次年度繰越支払資金	3,746,289,330
収入の部合計	22,357,020,249	支出の部合計	22,357,020,249

※学生生徒等納付金に占める各部門の割合は、通学課程 77.1% 通信教育課程 22.0% 幼稚園 0.9%。

※手数料に占める各部門の割合は、通学課程 68.4% 通信教育課程 31.5% 幼稚園 0.1%。

※寄付金は、特別寄付金、一般寄付金と浄土宗からの補助金。

※補助金は、国・地方公共団体等の交付金。

※事業収入は、寮収入・四条センター公開講座受講料等の収入。

※基本金組入額は、教育施設拡充引当特定資産の組入れのほか、二条キャンパス1号館の施設設備・教育研究用機器備品、図書等の購入を含む。

■消費収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位 円)

消 費 収 入 の 部		消 費 支 出 の 部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金	9,860,629,150	人件費	5,995,803,493
手数料	699,280,250	教育研究経費	3,997,253,991
寄付金	116,134,884	管理経費	1,300,863,046
補助金	1,079,589,105	借入金等利息	139,946,692
資産運用収入	73,348,352	資産処分差額	41,611,744
事業収入	108,762,804		
雑収入	127,161,298		
帰属収入合計	12,064,905,843		
基本金組入額合計	△ 536,883,361	消費支出の部合計	11,475,478,966
消費収入の部合計	11,528,022,482	当年度消費支出超過額	△ 52,543,516

■学校法人佛教教育学園

貸借対照表 (平成23年3月31日)

(単位 円)

資 産 の 部		負債の部・基本金の部・消費収支差額の部	
科 目	本 年 度 末	科 目	本 年 度 末
固定資産	(112,603,322,025)	負債	(21,239,286,547)
土地	38,397,362,278	借入金	12,159,300,000
建物・構築物	36,017,749,757	退職給与引当金	5,292,471,914
機器備品	1,437,197,514	前受金	3,787,514,633
図書	5,426,983,086	基本金	(107,455,710,681)
教育施設拡充引当特定資産	5,210,000,000	翌年度繰越消費支出超過額	(2,905,628,729)
教育施設充実引当特定資産	4,600,000,000		
四条センター基金引当特定資産	4,000,000,000		
施設拡充整備引当特定資産	20,000,000		
第3号基本金引当資産	352,720,000		
その他	17,141,309,390		
流動資産	(13,186,046,474)		
現金預金	12,726,855,524		
その他	459,190,950		
合計	125,789,368,499	合計	125,789,368,499

◆◆平成23年度宗教行事紹介 宗教情操行事◆◆

佛教大学で送る学生生活の中で宗教情操行事に心と身体で触れ、現在そして将来と、意義ある日々を送られるようお願いしております。

◆◆新入生知恩院（祖山）参拝◆◆

4月5日（火）、毎年恒例の新入生祖山参拝では、新入生一同で浄土宗総本山知恩院へ参拝いたしました。本学混声合唱団ならびにチアリーダー部の協力により音楽法要を盛大に実施し、日常と異なる雰囲気の中での講話に耳を傾けました。新入生約1400名が参加いたしました。

しゃくそんごうたん え

◆◆釈尊降誕会・法然上人誕生会◆◆

4月6日（水）、お釈迦さまと法然上人のご誕生をお祝いし、導師を山極伸之学長、脇導師に林俊光宗教教育センター長のもと、鷹陵館にて音楽法要を実施いたしました。

開式前には学歌ならびに聖歌指導が行われ、法要後には世界の舞台でご活躍されている「ヴァサントマラ印度舞踊研究所」のシャクティーさんと研究所の方々より、インド舞踊が奉納され、約640名が参加いたしました。

また、午後からは中庭にて甘茶供養と甘茶の配布を行い、多数の方に触れていただきました。



◆◆写経会◆◆

年に6～7回、法然上人のご命日（25日）には、朝の音楽法要に加えて写経会を礼拝室（14号館2階）にて開催しております。

真剣な面持ちで取り組み自己と向き合う静かな時間を過ごしていただいております。筆、硯、墨汁等、用具はすべてこちらで準備いたします。保護者の皆様もお誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。

今回の写経会は、平成24年4月に実施予定です。



◆◆第62回 春の寺院参拝「還愚の会」◆◆

毎年、春期と秋期の2回、法然上人ゆかりの地等を巡る「還愚の会」を実施しています。

春期「還愚の会」は、5月22日（日）に奈良県の靈山寺と東大寺の参拝を企画したところ、25名の方がご参加くださいました。

当日は観光バスにて奈良へ向かい、靈山寺にてご講話をいただきました。東大寺では法然上人二十五霊場第十一番であります「指図堂」にてお勤めをした後、参拝いたしました。



◆◆佛教大学授戒会開筵◆◆

9月9日（金）から11日（日）まで、嵯峨釈迦堂清凉寺（京都市右京区）において佛教大学授戒会を開筵。

伝戒師の森山清徹先生（仏教学部教授）、説戒師の笹田教彰先生（仏教学部教授）、山極伸之学長統括のもとで実施いたしました。

2泊3日の短い期間でしたが、日常の雑踏から離れた静かな道場において、参加者は戒を授かることの意義や人間としての生き方について、体験を通じて思慮しつつ過ごされました。

最終日の正授戒では伝戒師より戒牒が授与され、成満となりました。

【成満者数】 合計39名（男性14名・女性25名）

＝通学生（10名）・通信生（23名）・保護者（4名）・教職員（2名）

※感想文の一部を『白道』第31号（平成24年3月14日発行）において紹介いたします。



第63回 秋の寺院参拝「還愚の会」

秋期「還愚の会」は、11月6日(日)に佛教大学の周辺散策を企画したところ21名の参加がありました。

引接寺(千本閻魔堂)・石像寺(釘抜地藏)・浄土院(湯たくさん茶くれん寺)ではご講話をいただき、大報恩寺(千本釈迦堂)では霊宝館と国宝であります本堂を拝観いたしました。



釈尊成道会

釈尊のおさとりを讃える「釈尊成道会」を、12月6日(火)に常照ホール(成徳常照館5階)において実施いたしました。

【次第】 I部：音楽法要 II部：宗教教育懸賞企画授賞式 III部：特別講演

特別講演には、総本山知恩院門跡 伊藤唯眞 猊下をお迎えいたしました。「流れを汲めば」という演題で、大変貴重なご講演をいただきました。

通信生および一般の来聴者を含め、約440名の参加がありました。

※講演内容は「法輪(宗教教育センター選書)」第19号(平成24年3月14日発行)に掲載いたします。



〈今後の予定〉

法然上人御忌会

1月25日(水)は、元祖大師法然上人のご命日です。法然上人のご命日に、その恩徳を偲んで営まれる法会を御忌法要といいます。この「御忌(ぎよき)」という言葉は、もともと天皇や皇后の忌日法会(命日に勤められる法要)を意味していましたが、大永4(1524)年、後柏原天皇より詔があり、以来、法然上人の忌日法要を「御忌法要」と呼ぶようになりました。

【日時】 平成24年1月25日(水) 11時45分～12時15分 ・礼拝室(14号館2階)

釈尊涅槃会

涅槃会は、お釈迦さまがお亡くなりになられたと伝えられる日(2月15日)に、その時のありさまを描いた涅槃図を掲げて追慕の念を表す法要です。

涅槃とは、本来、あらゆる煩惱を滅して心の静まった「さとり」の状態をさします。釈尊は、成道(さとりを開き仏となること)以来、涅槃の境地にあったわけですが、肉体がある以上さまざま苦痛が伴いました。釈尊はその苦痛をものともせず「涅槃」の状態を保ち続けましたが、その肉体の消滅をもって、完全なる「涅槃」の状態に入られたのです。

釈尊涅槃会は、釈尊がいかに煩惱を滅し、人間のあるべき理想を実現された人物であるのかを偲び、それを私達が自覚する会でもあります。

【日時】 平成24年1月31日(火) 11時45分～12時15分 ・礼拝室(14号館2階)

宗教教育懸賞企画受賞者

釈尊成道会の中で「宗教教育懸賞企画」の授賞式を執り行いました。本年(応募期間7月8日～9月30日)は、作文16点・書87点(漢字64点・漢字かな23点)の合計103点に渡る多数のご応募をいただきました。

選考の結果、次の方々への受賞が決まりました。〈敬称略/＊通信生〉

〔作文の部〕

最優秀 白杵 健太郎 (教育2)
優 秀 齋藤 みゆき＊ (修士・仏教学1)
入 選 藤本 光司＊ (課程本科)
植田 慈郎＊ (修士・国文学3)

田中 浩貴 (公共政策2)
宮原 久美子＊ (日本文2)
齊藤 隆沙 (別科2)
蟹和 沙織 (別科2)

〔書・漢字の部〕

最優秀 植野 繁子＊ (教養講座)
優 秀 森田 千佐子＊ (人文4)
榊本 麻亜子 (日本文2)
宗川 裕馬 (別科2)
入 選 御内 智博 (中国2)
鹿見嶋 由華 (人文4)

〔書・漢字かなの部〕

最優秀 市橋 三四子＊ (人文5)
優 秀 寺谷 和子＊ (教養講座)
加瀬 京子＊ (人文4)
入 選 松村 美奈＊ (課程本科)
南條 佳代 (博士・国文学3)
大高 愛子＊ (教養講座)

「書の部」全応募作品を鷹陵祭期間中(10月30日～11月1日)に礼拝室(14号館2階)へ展示し、多数の方にご覧いただきました。

※「作文の部」最優秀は『白道』第31号において全文を紹介いたします。
※「書の部」最優秀・優秀作品は、表装し1年間、礼拝室へ展示し『白道』第31号において写真紹介いたします。

宗教文化ミュージアム(シアター公演)のご案内

平成20年4月に施設名を「アジア宗教文化情報研究所」から「宗教文化ミュージアム」と改称し、宗教文化に関する文化財の展示やシアターでの公演といった、展示室と劇場を兼ね備えた、静的・動的な展示機能をもつ博物館として開館しました。企画展(春秋各1回)やシアターにおける無形文化財の公演などを企画しています。また、アジア宗教文化情報研究所における資料収集・調査・研究(シクロロード部門・歴史文化部門・浄土宗文化部門)活動を引き続き、研究成果を配信します。

□ 休館日 □ 特別展、企画展

□ その他行事

1 JAN

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2 FEB

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

3 MAR

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2012年1月28日(土) 14:00～

第14回シアター公演 **要事前申込**

法然上人800年大遠忌記念
 佛教大学開学100周年企画

「日本の音楽・世界の音楽
アジア大乱調～民族音楽と乱拍子～」

解説：小野田俊蔵(本学歴史学部教授、本館館長)
 出演：アポ・室優哉・ハンマダン

【入館料】 無 料

【開館時間】

午前10時～午後5時30分
 ※入館は午後5時まで

【休館日】

日曜・祝日、大学の定める休日
 ※特別展開催期間中は日曜・祝日開館。

【交通案内】

- 市バス59号系統(一部)
 「広沢池・佛大広沢校地前」下車すぐ
- 市バス10・26・59号系統
 「山越」下車 西へ徒歩約13分
- 市バス91・93号系統
 京都バス81・83号系統
 「広沢御所ノ内町」下車 北へ徒歩約8分

お問い合わせ先

佛教大学宗教文化ミュージアム

〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
 TEL. 075-873-3115 (代) FAX. 075-873-3121

2012年2月6日(月)～3月4日(日)

冬期特別展示 **第二展示室**

法然上人800年大遠忌記念
 佛教大学開学100周年企画

「**研究の肖像**～佛教大学
 ゆかりの先生と研究ノート～」

シアター公演観覧お申込方法

郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数・観覧希望公演名をご記入のうえ、

- ①ハガキ
- ②FAX (075-873-3121)
- ③E-mail (asia@bukkyo-u.ac.jp)
 ※件名はシアター公演申込としてください。

上記のいずれかにてお申し込みください。こちらよりご招待状をお送り致します。万一、開催日1週間前までに招待状が届かなかった場合は当館までご連絡ください。受付期間は、**開催日の1ヶ月前から、先着順130名**といたします。

ご案内 佛教大学四条センター 佛教大学同窓会提供講座「人間」開講

本講座は、同窓会事業の一つとして、各分野で活躍されている同窓生を講師に招き、生涯学習の場を提供することを目的として平成15年度より行われています。今回は、コンサートや舞台の司会、TVやCMのナレーター、また、伊藤唯真浄土宗門主の晋山祝賀会の司会も務められ、ご活躍されている岡崎弥生さんに講演いただきます。

入場無料

開催日時 平成24年1月28日(土) 13時～14時30分

テーマ 「回り道～人との出会い、ふれあいで生まれ、やっとスタートラインに～」

若輩者のちょっとした体験談をお届けします。

回り道の珍道中です。自分探しの旅から始まった都会生活。

予期せぬ「アナウンス業」との出会い…。

また、人前に立つ際のリラックス方法と笑顔のトレーニングでお楽しみください。

講師 岡崎弥生(おかざき やよい) 平成5年9月文学部英文学科卒業・アナウンス業・ナレーター業

会場およびお問合せ 佛教大学四条センター(京都市下京区四条烏丸北東角 京都三井ビルディング4階)
 JR「京都駅」より市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車すぐ

TEL: 075-231-8004

事務取扱時間: 月～土(10:00～17:00) 休館日: 日曜日・祝日・大学指定日





佛教大学通信教育部主催 全国5都市開催

あなたの街でオープンキャンパス（講演会&入学説明会）

「これから学びたい!」「もっと学びたい!」 そんな皆様のために佛教大学が全国を巡ります。

ご友人、お知り合いの方々も一緒にお気軽にお越しください。

入場無料

開催日時	内 容	会 場									
平成24年 1月21日(土) 13:00~16:00	<p>テーマ 「学校と子ども」の事実-これまで・今・これから-</p> <p>コミュニケーションする力、集団の機能を読み取る力、他とかかわりながら自己表現する力、適切な言語運用を可能とする力、これらはすべての学習にとって基礎的な力です。しかし、これらの力が学校においてどのように指導され、学習者はどのように習得しているのかという事実は見えにくいようです。学力観も大きな転換点を迎えています。学習指導要領も新しくなり、「新学力観」もある程度定着してきました。全国学力調査や OECD の学力調査 (PISA) などでの日本の学校の新たな課題も浮かび上がってきました。このような転換期に、改めて「学校の事実」について考えてみたいと思います。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>講師 (敬称略)</td> </tr> <tr> <td>第一部</td> <td>社会言語学的アプローチにより「これまでと今」を質的な事実をもとにお話しします。</td> <td>達富 洋二 (教育学部准教授)</td> </tr> <tr> <td>第二部</td> <td>社会学的アプローチにより「今とこれから」を量的な事実をもとにお話しします。</td> <td>原 清治 (教育学部教授)</td> </tr> </table> <p>※入学説明会 15:00~17:00</p>			講師 (敬称略)	第一部	社会言語学的アプローチにより「これまでと今」を質的な事実をもとにお話しします。	達富 洋二 (教育学部准教授)	第二部	社会学的アプローチにより「今とこれから」を量的な事実をもとにお話しします。	原 清治 (教育学部教授)	<p>ウインクあいち (愛知県産業労働センター) 名古屋市中村区名駅 4-4-38</p> <p>JR「名古屋駅」桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分。又は ユニモール地下街5番出口 徒歩2分。</p>
		講師 (敬称略)									
第一部	社会言語学的アプローチにより「これまでと今」を質的な事実をもとにお話しします。	達富 洋二 (教育学部准教授)									
第二部	社会学的アプローチにより「今とこれから」を量的な事実をもとにお話しします。	原 清治 (教育学部教授)									
平成24年 1月28日(土) 13:00~15:00	<p>テーマ ふろしきの文化</p> <p>仏教と西洋の宗教の特色とはどのようなものでしょうか。例えば東洋的な持物のふろしきの中身に合わせて包んで用います。また一定の大きさがある西洋のカバンは中身を入れて用います。「包む」と「入れる」果たしてこの違いはどこから来たのでしょうか。この違いを一例として、仏教と西洋の宗教の特色について述べてみたいと思います。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>講師 (敬称略)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>ふろしきの文化</td> <td>福原 隆善 (仏教学部教授)</td> </tr> </table> <p>※入学説明会 15:00~17:00</p>			講師 (敬称略)	講演	ふろしきの文化	福原 隆善 (仏教学部教授)	<p>TKP 東京駅八重洲 カンファレンスセンター 東京都中央区京橋 2-3-19 TKP 八重洲ビル</p> <p>JR「東京駅」八重洲口から 徒歩5分。又は 地下鉄銀座線「京橋駅」から 徒歩2分</p>			
		講師 (敬称略)									
講演	ふろしきの文化	福原 隆善 (仏教学部教授)									
平成24年 2月18日(土) 13:00~15:00	<p>テーマ ひょっこりひょうたん島</p> <p>われわれの眼は、いつも外を向いています。その為に外の事や他人のことはよく見、よく知っているのです。さて、自分自身のことはどうでしょうか？ひょうたん島とはどこのこと？そこに住んでいながら、国民が自分の国が一体どこに向かって進んでいるのか解っていないどこかの島国のことですよ。一度眼をひっくり返して見てみないと。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>講師 (敬称略)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>ひょっこりひょうたん島</td> <td>田中 典彦 (文学部教授)</td> </tr> </table>			講師 (敬称略)	講演	ひょっこりひょうたん島	田中 典彦 (文学部教授)	<p>FFB 福岡 ファッションビル 福岡市博多区博多駅前 2-10-19</p> <p>地下鉄「祇園駅」下車 徒歩約1分(5番出口)</p>			
		講師 (敬称略)									
講演	ひょっこりひょうたん島	田中 典彦 (文学部教授)									

佛教大学通信教育部主催 公開講演会

入場無料

開催日時	内 容	会 場						
平成24年 2月18日(土) 14:00~16:50	<p>テーマ 「半学半教」の生涯学習 ~学習ボランティアのすすめ~</p> <p>学ぶということは自分のため、と思われがちです。しかし、学習の成果は地域社会などに還元してこそ、本人にとっても地域住民にとっても学びは喜びとなります。例えば現在、学校支援地域本部事業では生涯学習の成果が学校の授業、課外活動などで有効に公開され、子どもたちやゲストティーチャーは学びがい・働きがいを感じています。</p> <p>歴史を遡れば、その精神は「半学半教」とよばれ、学習者同士、学習者と指導者とが学びを享受していました。浜松出身の賀茂真淵もその弟子・本居宣長も、宣長の弟子たちも「半学半教」を進め、学習の成果を公開していました。再生可能エネルギーが求められる時代、生涯学習もまた「知の循環型」の学びが要請されています。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>講師 (敬称略)</td> </tr> <tr> <td>講演</td> <td>「半学半教」の生涯学習 ~学習ボランティアのすすめ~</td> <td>白石 克己 (教育学部教授)</td> </tr> </table>			講師 (敬称略)	講演	「半学半教」の生涯学習 ~学習ボランティアのすすめ~	白石 克己 (教育学部教授)	<p>ホテルクラウンパレス浜松 静岡県浜松市中区板屋町 110-17</p> <p>JR「浜松駅」下車 徒歩3分</p>
		講師 (敬称略)						
講演	「半学半教」の生涯学習 ~学習ボランティアのすすめ~	白石 克己 (教育学部教授)						

2011年度 秋学期 佛大カレンダー

期別	月	日 程	事 項
秋 学 期	12月	26日(月)～1月4日(水)	冬期休暇
	1月	5日(木)	始講式・秋学期授業再開
		5日(木)～4月28日(土)	春学期休学または年間休学受付期間(2012年度)
		5日(木)～31日(火)	転学部・転学科許可願提出期間
		8日(日)・9日(祝)・ 22日(日)・29日(日)	秋学期補講日
		11日(水)	就活フォローセミナー(4回生対象)
		12日(木)	社会福祉ガイダンス(1・2・3回生対象)
		14日(土)・15日(日)	大学入試センター試験(本学会場有り)
		16日(月)～2月28日(火)	再入学受付期間
		24日(火)	秋学期授業終了
		25日(水)	法然上人御忌会
		25日(水)～31日(火)	秋学期定期試験
		31日(火)	釈尊涅槃会
		2月	1日(水)～3日(金)
	1日(水)～3月14日(水)		転籍受付期間
	4日(土)～10日(金)		3月卒業・修了対象者、卒業・修了口頭試問
	6日(月)～10日(金)		学内企業(事業所)説明会
	6日(月)～10日(金)		面接マナー講座
	8日(水)・9日(木)		秋学期追試験(予定)
	上旬～下旬		短期海外語学研修(C.O.D.)
	19日(日)		大学院修士課程・社会人修士課程・成績優秀学生修士課程【臨床心理学専攻を除く】・留学生修士課程(2月)、大学院博士後期課程・社会人博士後期課程・成績優秀学生博士後期課程【生涯教育・社会福祉学専攻】・留学生博士後期課程、編入学(2月)、社会人1年次入学・編入学(2月)、留学生1年次入学・編入学(2月)・別科、転籍、別科入学試験
	3月	3日(土)	大学院修士課程・成績優秀学生修士課程・留学生修士課程(2月) 【教育学研究科のみ】面接試験
		5日(月)・6日(火)	一般入学試験B日程
		13日(火)	留学生送別会
		14日(水)	学位記、卒業・修了証書授与式(3月卒業・修了)
		15日(木)	学内法定点検(紫野キャンパス内全域非常放送鳴動)
		21日(水)～5月15日(火)	佛科大学学資給付金(春学期)出願期間(2012年度)
		21日(水)～5月19日(土)	佛科大学学資貸付金(春学期)出願期間(2012年度)
		26日(月)～4月上旬	春学期在学生オリエンテーション(2012年度)(予定)

佛科大学教育後援会会則より抜粋

- 第2条** 本会は、大学と家庭との連絡を緊密にし佛科大学の教育振興に寄与するをもって目的とする。
- 第3条** 本会会員は、佛科大学学部生および別科生の保護者またはそれに代わる者をもって組織する。
- 第4条** 本会には次の委員および役員を置き、その任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- (1) 委 員 若干名、保護者の互選により佛科大学長がこれを委嘱し、重要会務を評定する。
 - (2) 役 員 会長1名、副会長1名、監事3名、委員中から互選する。
- 第5条** 本会は、次の事業を行なう。
- (1) 大学と家庭の相互連絡
 - (2) 教育に関する研究調査
 - (3) 学生教育の振興に関する事項
 - (4) 佛科大学教育後援会奨学生に関する事項
 - (5) その他必要と認められた事項
- 第6条** 本会は必要に応じて、委員会および総会を開くものとする。
- 第7条** 本会の経費は、会員の会費および篤志金をもって支弁する。
- 第8条** 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。